

南三陸 ホテル観洋

最優秀賞を獲得

語り部活動に高評価

マニフェスト大賞 被災地の現状、課題発信

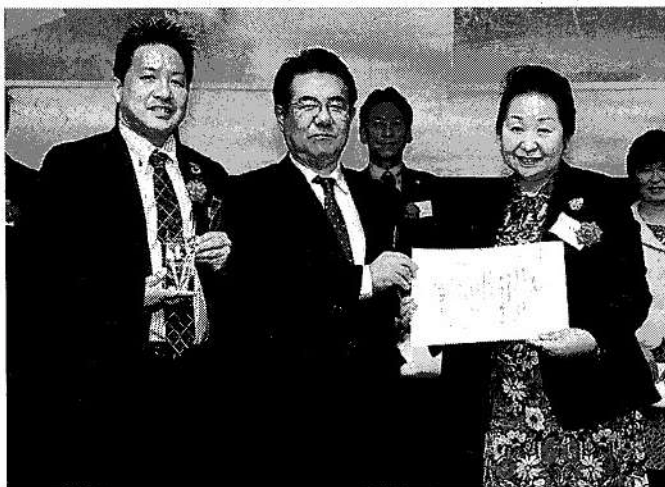
地方自治体の首長や議員、市民らの優れた活動を表彰する「第14回マニフェスト大賞」(実行委主催)のコミュニケーション戦略賞部門で、南三陸町の南三陸ホテル観洋が最優秀賞を受賞した。東日本大震災を教訓にした語り部活動を震災直後から継続。被災地の現状や課題を伝え、「学び」を提供することで交流人口の拡大や防災・減災への取り組みを発信し続ける姿勢が高い評価を受けた。

交流人口拡大へ役割

2006年に始まったマニフェスト大賞は、地方自治体の首長や議会、市民団体などの活動実績をたたえ、政策本位の政治、生活者目線の政策を推進することを目的に開催。

「マニフェスト推進賞」や「成果賞」「政策提言賞」など6部門に過去最多となる2619件の応募があった。

賞状を手にする阿部おかみ(ホテル提供)



10月には各部門5件、計30件の優秀賞を発表。今月8日に東京

被災した地域を案内する語り部バスを本格運行した。

利用者は延べ35万人以上

12年からは個人向けの運行も始め、震災から8年8カ月が過ぎた現在まで毎日欠かさず運行。利用した延べ35万人以上の人に、被災地の復興の現状と震災の教訓を伝え続けている。

また、語り部のスキルアップや、全国の被災地とのつながりを持つために、阪神・淡路大震災で被災した兵庫県神戸市の関係者らと語り部シンポジウムを開催。「KATARI BEを世界へ」をキーワード

また、語り部のスキルアップや、全国の被災地とのつながりを持つために、阪神・淡路大震災で被災した兵庫

ジャンボのり巻き作りに挑戦

田柄3区で芋煮会

気仙沼市田柄3区自治会(田村泰二会長)

芋煮会が10日、地区集会所で開かれた。恒例のジャンボのり巻き

キッチンへ素朴なニラ玉リクエスト
千曲川頭が泣いている自然界
増税の次は台風財政難
受診する診療科目あっちこち
ルーズさにズルさ上乘せ無申告

こころの柳

本吉 牧 東新 坊の 東新

ワードに、熊本地震で被災した熊本県をはじめ、海外などとのネットワークを構築するなど、防災・減災への学び、課題や情報の共有の場として広がりを見せている。

授賞式には阿部憲子おかみらが出席。賞状を受け取った阿部おかみは「毎日の地道な取り組みが全国的な表彰

作りも行われ、完成した長いのり巻きに住民の笑顔が広がった。多世代にわたる地域交流を目的に毎年開かれていたイベントで、この日は子供からお年寄りまで約50人が参加した。

ジャンボのり巻き作を乗せたりして調理を